

樋高剛

●収録日時：2002年



東京海上火災保険勤務を経て小沢一郎氏の秘書を8年間務め政界入りした樋高氏に、有事法制や食の安全など、命を守る事の根本を伺いました。

■光永 自由党本部に行くと

ガードが固く、党首に会えないよう関所がいっぱいあります。

■樋高 そんな事ありません。いつでも私に言ってお下さい(笑)。

■光永 小沢さんの一面を見たのは、静岡のある国会議員の選挙の時、我々の話し合いを隣から椅子に乗って覗き込んでいる小沢さんと、目が合ったんですよ。心を打たれました。本当は出て来て話してくれたらもっと良かったんですけど、周囲の人が許さないのでしょうね。小沢さん個人は素晴らしい党首だと思います。でもなかなか人物が表に出ていない。

■樋高 (小沢)党首は、実は気さくな人です。イメージの問題で、ある新聞社が一番怖そうな写真を、30枚以上の中からわざわざ

掲載するんです。

■光永 マスコミはイメージを作りがりますね。

なし崩し、先送りの体質で 独立国家としての 主権も意見もない

■樋高 自由党は若手を自由に

させてくれる、風通しの良い政党です。少人数という事もありまして、党首は一人ひとりの意見をとても良く聞いてくれます。そのような雰囲気は伝えられていないのは、若手の努力も足りないと思います。今度ぜひ党本部に遊びに来てください。

存在しない国を仮想敵国 にしている有事法制案

■司会 今国会の最重要法案で

ある有事法制の必要性は？

■樋高 政府が提出している案は、戦争を想定しているものです。有事法制は国民の生命・財産・人権・自由・文化を守る事が目的ですが、平時にルールを決めておく

事が重要だと思えます。日本には危機管理という考え方が欠如しています。万一の時に備える有事法制は整備すべきと考えます。ただし不完全なままで法案を通してはならないと思えます。自民党が出している有事法は、研究が始まった20〜30年前の戦争を想定しています。旧ソ連という、今は

なくなった国を仮想敵国にし、北海道に戦車で上陸して日本国内で陣地を作って土盛りをする、という時代錯誤なものなのです。安全保障環境は、世界の国が激変している中で、それに合わせ変えていくべきものなのに、古い戦争の概念にとらわれているのはおかしいと考えます。蓋然性が高いのは、ミサイル、不審船、国家テロ、大規模自然災害であり、これらを踏まえたものでなければならぬと思います。

先日、武力事態対処法の委員会が官房長官や防衛庁長官に「事が起こった時、どのように対処するのですか？」と質問したところ「その時考えるから」との回答でした。私は白紙委任状にサインさせるような法律案を作ってはならないと考えます。

■司会 そもそも有事とは？武力攻撃の定義について曖昧になっ

ているとの指摘もありますか？

■樋高 政府案では、武力自体があつた時、恐れがある時、予測される時に分けています。しかし、それぞれの違いは判断し難く、恐れと予測では、恐れの方が危険度が高くて、予測の方が低いのですが、答弁していても、よく分からなくなってしまう。自由党では、自衛隊が動く時の原則は3つと決めています。1)日本が直接危害を被った場合。2)世界平和を守るために国連から出動要請があつた場合。3)放置すれば日本に危害があると想定される場合。

政府案は、遊びの多い言葉の使い方、フリーハンドで動かせるようになっていっています。これでは地球の裏側でも兵を出せるという事であつて、はつきりさせないとおかしくなるのではないかと思います。

プロフィール

樋高 剛

ひだか たけし



1965年神奈川県生まれ。神奈川県立旭高等学校を卒業後、1986年に早稲田大学社会科学部に入学。在学中は応援部に所属し、副将・連盟常任委員などを務めた。1990年、東京海上火災保険勤務を経て、1991年より小沢一郎氏の秘書を務める。2000年の衆院選では自由党公認で神奈川7区から出馬し、比例復活で初当選。

2010年には環境大臣政務官を務める。衆議院本会議における社会保障・税一体改革関連法案の採決では、反対票を投じ民主党に離党届を提出するも受理されず、国民の生活が第一結党に参加。党幹事長代行(国会担当)に就任した。

信条は「政治に一本筋を通す事」。趣味は釣り・ドライブ。「小沢一郎の側近」と呼ばれている。